

## 世代論から想うこと

日本病院薬剤師会常務理事  
多可赤十字病院薬剤部長  
但馬 重俊 Shigetoshi TAJIMA



各世代には通称があり、1958年生まれの小生は、しらけ世代に属します。この世代は、無気力・無関心・無責任の三無主義に象徴され、団塊の世代に付度しつつ高度経済成長とバブル期を実体験しながらバブル崩壊も我ら世代の責任ではないというややこしい世代です。経済成長と技術革新は同時進行であり、薬物療法においても対症療法から根本治療が確立してくる過程を薬剤師として享受してきました。教育面では、個性より集団性を重んじられ、全体意識を植え付けられていたように感じます。人間関係では、家族ぐるみの親密さを基盤としており、親友は距離的に近い同年代しか存在しません。その後のゆとり世代では、個性を伸ばすことが重要視され、プライベートを重視し、指示がないと自分から動かない世代とも評されています。

今薬学部に学ぶ学生達はZ世代に属し、生まれた時にはデジタル社会であり、SNS等を何ん自由なく使いこなすソーシャルネイティブ世代とも言えます。それ故、ウェブ上でのコミュニケーションでの人間関係を重要視している世代とも考えられ、実際に会ったことがない人でも親友関係を構築できるのであろうと想像します。また、何か疑問があれば、ググれば解決策を見つけることができると確信している年代とも言えます。人間関係では、多様性（ダイバーシティー）を前提とした平等性を重んじる傾向があるらしい。

このように世代により人間関係の構築方法が異なることは、患者接遇に考慮すべき課題です。小生もまもなく高齢者と呼ばれる年齢であるが、患者となればチーム医療の一員として自身の治療に参画したいですが自己決定権よりも専門医療集団の意向を受け入れたいと考えます。各世代特性や家庭環境や成長過程の社会環境に応じた接遇方法があり、多様性を考慮しなければ服薬指導もままならないでしょう。

AIの発展により医療も変化し、診断も手術もAIを基盤とした機械化が進み、近未来には神の手をもつ完全自動手術ロボットが開発されるであろう。はたまた再生医療の発展により老化しない時代を迎えることも不可能ではなさそうですが、人類にとって幸福なことかは疑問です。AIの決定的な問題は、それ自身が無責任ですので、どのAIを利用するかをコンサルとする職種が今後の医療専門職として生まれるかもしれません。安全な医療提供には技術革新が必須ですが、安心な医療には精神的な満足度が欠けているように想うことは、しらけ世代の古い考え方なのかもしれません。小生自身はやはり医療者のもつ個性を受け入れつつ医療者からヒトとして暖かい寄り添う姿勢を感じられる安心感の高い医療を受けたいものです。Z世代が高齢者となる頃となれば、AIが推奨する治療方法を自身で検証して自己決定する時代が来るのでしょうか？

SDGsをスモールグループディスカッション（SGD）と読み間違い、DXをデラックスと思わず読んでしまいうらけ世代の戯言を巻頭言とさせていただきますこと深くお詫び申し上げます。